

東京丸の内ロータリークラブ

第52回 例会議事録

卓話:神奈川県庁

政策研究担当局長 竹本 治 様

2020年5月27日(水)

オンライン例会

① プログラム

- ◆ 司会進行 嘉納英樹 幹事
- ◆ 開会宣言 尾崎由比子 会長
- ◆ 4つのテスト 嘉納英樹 幹事
- ◆ ビジター紹介 嘉納英樹 幹事

【卓話者・ビジター】

- ・神奈川県庁 政策研究担当局長
竹本 治様
- ・2019-20 年度ガバナー補佐
若林 英博 様 (東京麹町 RC)
- ・2019-20 年度分区幹事
吉田 弘和 様 (東京麹町 RC)

② 会長挨拶 尾崎会長

丸の内は休むことなく例会を続けておりますが、

その中でも3つの柱で活動を続けております。まず1つ目は、「例会場応援プロジェクト」です。苦戦していらっしゃる例会場に少しでも貢献できれば、と、本来の例会費4,000円のうち、緊急事態宣言中のオンライン参加者には1,000円を皆様の昼食代としてキャッシュバック、残りの3,000円を例会場のお食事券という形で発行して頂きます。皆様の大切な方と、ご都合の良いタイミングでレストランをご利用頂き、同時に例会場の応援にも充てようというものです。6月17日の最終例会の日に配布予定ですので、どうぞ楽しみになさってくださいませ。

2番目は本来地区補助金を使ってやることになっていたサッカーのプロジェクトですが、新型コロナウイルス感染により今年度中の実施は不可能となったため、補助金は地区にお返しすることと致しました。また、用意したサッカーボール30個ですが、東京神田RCの宮地様が代表を務められている「親子はねやすめの会」に寄付してはどうかということになりました。夏用の涼しいマスクをセットにして、コロナ対策の一環として差し上げようということです。6月17日最終例会に宮地様への贈呈式をしたいと思っております。

3つ目のフェイスシールド・プロジェクトがひとつ区切りを迎えました。そのことに関して古山会員からご報告をお願いします。

・手作りフェイスシールド・プロジェクトについて (古山真紀子会員)

今年度後期になり、尾崎会長の下で心機一転、竹本さんのような卓話をお願いしたり、オーストラリアの森林火災支援をやったり、かなり活発に活動をしてまいりました。そこにきての新型コロナウイルス感染拡大で、例会もままならない中、さてどうしようということになりました。そこに、「身近な材料でフェイスシールドを作って医療従事者にお届けしよう」という案が事務局から提出され、臨時理事会での決定を経て、多くの方にご尽力い

ただ活動となりました。玉木会員がご自身の歯科クリニックで実際に試して頂き、その感想と共に作り方の動画まで作って皆にシェアして下さいました。更に玉木会員は、「このようなフェイスシールドを本当に必要としているのは、医師よりは現場の看護師だ」という貴重な情報を下さり、それに従って送り先を決定しました。例えば、玉木先生お知り合いの都立墨東病院の看護師、高木会員お知り合いの介護施設の看護師などです。そして、合計100個のフェイスシールドを製作してお送りすることが出来ました。これには、「とても助かる、嬉しい」というレスポンスをたくさん頂きました。こんなにたくさんの御礼のメールやお手紙を頂くのは初めてではないかと思います。しかもすべての経費が送料も合わせて5万円ほどで済みました。そして全行程において、Zoom や SNS で情報交換し、各自自宅で作業することによって、一度も集まることなくプロジェクトが完了いたしました。結果的にとても良い活動が出来たのではないかと思います。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。また、寄付先から「このように使っています」という写真が送られて来たので、それを公開用Facebook に載せてあります。皆様どうぞご覧になってください。

③ 会長エレクト報告

嘉納会長エレクト

- (1) 来期の委員会担当案・スケジュールについて
委員会の編成表を先日メールでお送りしました。人数が少ないクラブですので、皆様にご負担おかけしますが、何卒ご協力お願いします。
先ほど新しい例会の日程表をお送りしました。
2021年4月に2580地区の地区大会が移動

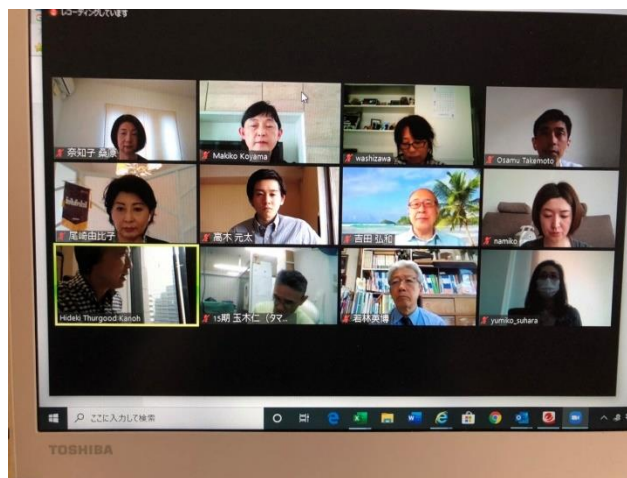
しまして、それが水曜日に当たるため、例会日程を変更しました（2021年4月の例会は14日と21日）。

(2) クラブ協議会開催について（6月17日）

6月17日に尾崎会長の下での最終例会がありますが、この直後にクラブ協議会を開催します。1時半くらいまでお時間頂戴しますので、ご協力をお願いします。次年度の方針、8月に予定されているガバナー訪問の準備、事業報告書等について話し合いたいと思います。来年度はコロナの第2波、第3派が来るかもしれませんので、なるべくオンラインで活動できるようなことを模索したいと思います。皆様からも、何かアイデアがございましたら、よろしくお願いします。

④ 出席報告

会員数	10名	ゲスト	1名
出席数	8名	ビジター	2名
欠席数	2名	出席率	80%



⑤卓話:「人生 100 歳時代」

～「定食型」から

「飲茶型」の人生へ～

神奈川県庁

政策研究担当局長 竹本 治様

本日はお招きいただきありがとうございます。
私は神奈川県庁政策研究担当局長をしております。事務局の桑原さんの古くからの友人ということで、このご縁を頂きました。新型コロナの影響で Zoom を通じてお会いすることになりましたが、近いうちにぜひリアルな場でもお会い出来ればと思います。

本日は「人生 100 歳時代～定食型から飲茶型の人生へ～」という題名にしました。また、新型コロナの後の時代についても話して欲しいと言われたので、一市民の立場で最後に少しお話いたします。

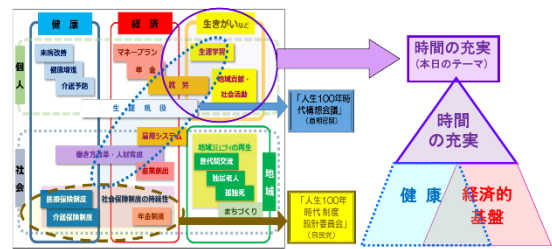
まず、「人生 100 歳時代」という言葉は、皆さんお聞きになったことがあると思います。近年一種の流行語と化しています。ニュースの見出しなどでキャッチフレーズとして、医療や介護、マネープラン、仕事や働き方、生涯教育や街づくりの話など、あらゆる場面で使われます。なので、ここで少し整理してみたいと思います。

まず、ひと昔前によく使われた「超高齢社会」という言葉とどう違うのか。「超高齢社会」とは、高齢者を軸に置いた発想で、社会の問題を考えようということです。ですから、どうしても、健康・医療・社会保障関係の話が中心となります。よって、どうしても将来について厳しいイメージがあります。一方で、「人生 100 歳時代」は、長い人生全体を考えるという語感があります。そのため、生き

方、働き方に力点が置かれたものになっています。若い世代も対象になりますし、ポジティブなイメージです。このような点がウケて、流行語になっているのだと思います。このように、二つの言葉は若干異なりますが、日本社会が取り組むべき課題が変わったわけではありません。

東京大学内閣府・リーディング・プロジェクト・研究員

3. 『人生 100 歳時代』の課題は、①健康、②経済、③生きがい、④地域の4分野に分けることが出来る。④個人・⑤社会制度という側面からは、2つに分けられる。議論する際には、多様なテーマのどこに焦点を当てるかが重要となる。



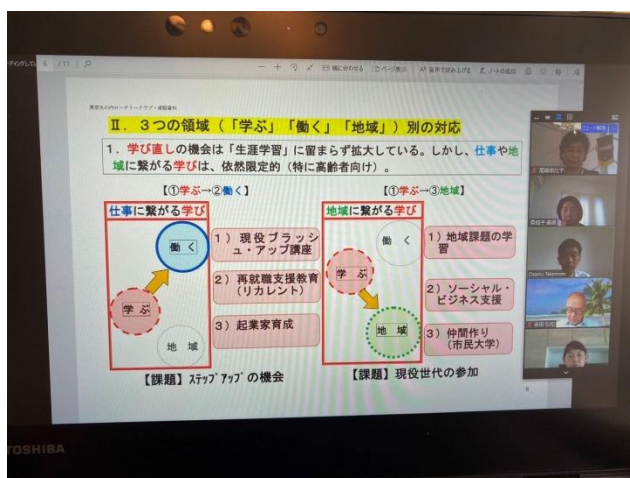
この課題を①健康、②経済、③生きがい、④地域の4分野に分けて整理してみました。また、それぞれについて①個人、②社会のふたつの側面に分けてみる事が出来ます。例えば①健康について考えると、個人としては自分の健康の話、社会全体としては、医療保険制度、介護保険制度の話となる訳です。②経済ですと、個人としては自分のマネープラン、年金、働き方の問題ですし、社会としては、雇用システム、年金制度の話になる訳です。③生きがいとしては、個人で言えば、学んだり地域で活躍する場があるということ、社会全体とすれば地域活性化、世代間交流という話になる訳です。このようにたくさんの側面があるので、どれかに絞って考えないと散漫になりがちです。「人生 100 歳時代」をテーマにフォーラムをやりますと、一人は健康について、一人は地域について話をする、など、お互いの話がかみ合わないことがよく起こります。

政府はどうしているかというと、「人生 100 年時代構想会議」(官邸)として、人材育成、ひとづくり革命、学びなおしや働き方革命といった視点から「長い人生マルチに生きていく」ということに焦点をおいた議論をしています。また、小泉新次郎議員で知られる「人生 100 年時代制度設計委員

会」(自民党)の下では、医療保険、介護保険、こども保険など、社会保障制度の持続性についての議論をしています。このように、100歳時代、100年時代という名前の下にいろいろな議論が出来るわけです。

では、今日はどうするかと言いますと、「時間の充実」ということを軸に話をしていきます。時間の充実の土台は「健康」と「経済的基盤」です。何に焦点を当てて時間の充実を図るかは人それぞれの価値観ですが、ここでは、「学ぶ」、「働く」、「地域」に絞って整理していきます。

典型的なサラリーマン人生を考えてみましょう。従来の「人生70歳モデル」の延長の場合は、若年期は主に「学ぶ」で少し「地域」。これに対し働き盛りの時代はほとんど「働く」のみ。「学ぶ」も「地域」に時間を割く余裕が全然ない状態です。定年後は生活の中心となる活動領域が失われてしまいます。加えて、3つの人生のフェーズの間に太い線(就活や定年)があって、はっきり断絶されています。これに対し、目指すべき人生100歳モデルでは、若いうちは今と変わらず「学び」と「地域」ですが、働き盛りの時期に、「働く」のウエイトが少し小さくなり、「学ぶ」と「地域」とバランスが保たれるようになります。高齢生活でも、この3つは保たれています。また、これらの期を断絶する太い線がなくなっています。



ここからは、各論です。「学ぶ」については、以前から生涯学習というのがありました。これからは、「仕事につながる学び」として、「現役ブラッシュアップ講座」や「リカレント講座(再就職支援教育)」、「起業家育成講座」があります。つまり、単なる生涯学習というより、「ステップアップしていく学び」が広がりつつあります。また、「地域への学び」ということでは、「地域課題の学習」や社会に役に立つ「ソーシャルビジネス支援」の学び、仲間づくりのための市民大学(世田谷区など)があります。ただ、高齢者向けのものが多く、現役世代をどう参加させるかが課題として残ります。事実、日本の雇用環境の下では、学びなおしが雇用につながらないという実態があります。しかし、働き盛りのスキルアップや再就職など、社会のニーズも変化しており、それに応じた学び直しの受け皿の拡充は必要になっていきます。

「働き方の見直し」は「個人の時間の充実」の観点からとても重要です。そもそもなぜ「働き方改革」が必要かというと、①日本の人口減少と共に労働者不足になること、②長時間労働など雇用環境の改善が求められること、③サービス産業を中心に生産性を上げていく必要があること、が考えられます。①については、高齢者雇用の促進、②は長時間労働の是正、③はテレワークの促進などが進められています。昭和的な社会制度である、現役、正社員、男性、健常者、日本人、フルタイム中心の雇用制度からの脱却が必要なのです。つまり、令和の時代では、「柔軟な働き方をしても『損をしない』社会(令和モデル)」に変えていくべきであるということ。長期雇用や正社員でなくても、能力・働きに応じた処遇を受け、安心感を持って働ける社会をつくるべきだということです。このように働き方の見直しを進めることは、個々人の時間の充実にもつながるだけでなく、健康・経済的基盤を向上させることにもなるのです。例えばテレワークですと、通勤負担の減少で健康にもよく、時間的ゆとりにもつながります。また、高齢者雇用の積極化、

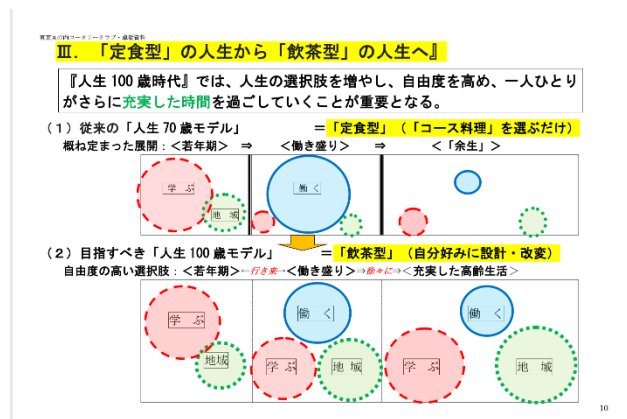
闘病との両立についても、働き方を見直せば心身の健康にも良く、経済的基盤を安定化し、社会とのつながりを作って時間的充実にも寄与します。私自身癌患者の一人として、現在も闘病治療しています。これまで2度の抗がん剤投与の際は長期休職していました。今は時間短縮と在宅勤務のおかげで休職しないで済んでいます。そういう意味では、働き方改革の恩恵を自分自身が受けているのです。

地域活動についても、地域のためというよりは、自分の時間の充実という観点から考えてみます。地域コミュニティの弱体化という問題がありますが、地域活動がもし楽しければ皆さん積極的になさるでしょう。そのためには、「早く（定年前）から」「緩やかに」地域活動に参加し、結果的にそれが社会貢献をしているという実感から自分に「役に立つ」と思えるものであればよいのです。

まさに、ロータリーの活動というのは、ずばりこの地域活動に当たるといえます。つまり、ロータリーでは、近隣に限らず広く地域貢献を行い、会員の皆さんは現役の方々と、互いに緩やかにつながっており、それぞれの会員が知識や経験、意欲を活かして役に立つ活動をされています。まさに理想的な活動ですね。そのような活動が世の中に広がっていけば、暮らしやすい世の中になっていくと思います。実際、会員になっていらっしゃる方は、何らかの形で柔軟な働き方が出来ているということだと思いますが、いかがでしょうか？ここでもやはり「働き方の見直し」が必要だということがわかります。

今日の話の副題は、『『定食型』の人生から『飲茶型』の人生へ』です。従来型の人生70歳モデルはいわば定食型の、ある程度定まったコースを選ぶだけでした。これに対し「令和モデル」は、自由度が高く、色々な小皿（学び、仕事、子育て等）を思い思いのタイミングで食べる飲茶型になるべきと思います。自由自在に組み合わせを変えられることで、彩りの多い人生を自分好みに選択していく

というものです。「個人も社会も、飲茶型人生を目指していきましょう」というのが私からのメッセージです。



さて、ここからは、県庁職員を離れて一市民としての考えをお話します。新型コロナの影響の中で人生100歳時代を考えてみたいと思います。たとえ有効なワクチンが出来たところで、新型コロナを撲滅するということは出来ません。したがって新型コロナを前提として社会を再構築する必要があります。

新型コロナをめぐるこれまでの政府の対応は今一つだったと皆さん思われているのではないのでしょうか。ただ、我々市民にとって「このようなことが課題なのだ」ということが良く見えた大事件でもあったと思います。例えば、「健康」を取り戻していく上で、公衆衛生というのは非常に大事です。また、「経済的基盤」の側面では、今回自営業やフリーランスの方が大打撃を受けたわけですが、そこからの救済を模索しなくてははいけません。すなわち、健康と経済的基盤があって、そのうえで「自分の価値観にあったバランスのとれた人生」を目指すという意味では、ポスト・コロナでも人生100歳時代の方針に変わりはありません。

3. 人とのコミュニケーションでは、デジタル化が加速する。人間関係も確実に変化する。だからこそ「リアルな繋がり」が一段と貴重になる。効率性だけで割り切れない分野では、リアルな関係を『慈しむ』活動が却って増えるのではないか。

【人々のコミュニケーションのスタイル】



最後に、人とのコミュニケーションでは、デジタル化が加速することは間違いありません。今までなかなか浸透しなかったテレワーク、行政・教育のICT化もこれを機に一気に進むことでしょう。これによって社会の効率性は大いに上がり、それは歓迎されることですが、人間関係も確実に変化してしまいます。すでにメールなどによるつながりは始まっていますが、ポスト・コロナの世界では、デジタルの場が圧倒的に広がりを見せます。でもだからこそ人は、リアルなつながりの機会を一段と大切にするのではないかと、思います。つまり効率性だけで割り切れない分野では、リアルな関係をより一層慈しむ活動がむしろ増えることになると思います。ビジネスでも、デジタル化が一層広がると同時に、ヒューマンな関係を大事にするサービスも出てきて、両極化するのではないかと、思います。

以上、一市民として新型コロナ後の感想や展望を付け加えさせて頂きました。本日の話が皆様にとって、充実した「飲茶型」人生を展開していく上での参考となれば幸いです。ご清聴ありがとうございました。

◆ 質疑応答

【尾崎会長】

竹本さん、どうもありがとうございました。今後ロータリー増強をしていく上でも非常に参考になりました。ロータリーにお誘いする時に、「今後の人生の中で、ロータリー活動を取り入れて頂ければ」

というお話もしたいと思います。

【竹本氏】

ロータリーの潜在的ニーズはとてもあると思います。「今の働き方ではだめだなあ。つながりをもっと他の形で作りたいが、どうしたらよいかわからない」と思っている会社人間は結構います。ただ、そのような人達に、機会や情報が行きわたっていない。もう少し気持ちにゆとりを持って社会での活動が盛んになってくれれば良いと思います。ただ、あくまでもこれは「社会のため」ではなく、「自分が楽しいから」であって欲しいと思います。

【若林ガバナー補佐】

最後のコミュニケーションについてのご指摘がとても興味深かったです。これからのロータリーの方向性について見極めようとしているところです。

【竹本氏】

今日のロータリーの活動報告を伺いまして、ネットなどデジタルで出来るところはやる、その一方でヒューマンなつながりも持つという、両方を目指していらっしゃるところが素晴らしいと思いました。

【吉田分区幹事】

本日のお話で、人材を適材適所で活用していくためには、いろいろな分野との「行き来」ができることが大事と伺いまして、共感いたしました。諸外国でしたら民間から政治など、民から官への移動が自由なのに、日本は硬直的な縦社会かと思います。今後神奈川県では、そのような政策で思うところはあるのでしょうか？日本銀行から神奈川県庁に転職されたというご自身のご経験も踏まえて何かお知恵を拝借したいと思います。

【竹本氏】

大変大きな課題ですね。今「同一賃金同一労働」という話がございます。それは、いわば「同じ能力であれば、新しく来た人でもOK」ということですよね。それをやらないと、長く組織にいる人が得をし、新しく来た人が損をする、ということで、これでは上手く人は流れていきません。これまでの年功

序列とは同じ組織にずっといることが前提のスタイルだったのですが、これを、賃金カーブをフラット化しながら、出入りしてもお互い損をしない社会に変えていかなくてははいけません。これはジョブ型といって、移行には時間がかかりますが、少しずつその方向に持っていく必要があると思います。例えば、退職金。「退職金を最後にたくさんもらえるから、そのためにあと何年か我慢しよう」ということがあります。でも、40代でご縁があり、他に移っても損しなければ、本当はそうしますよね。これは、民⇒民の話ですが、そのようにいろいろな行き来が出来ればと思います。

【古山会計】

お話を伺いますと、「これから社会は多様性に向かっている」ということでしょうか。

【竹本氏】

まさにそれを目指している。もう昭和モデルではないのだという事を市民ひとりひとりが言っていないといけない。今まで通りの枠の中で最適化を求めるのでは変わりません。今後は多様な生き方が大事で、それを求めているのだということを主張しなくてははいけません。その意味では、「境目の少ない社会」というのが、現在私の中でのキーワードになっています。正社員かどうか、男か女か、日本人か外国人か、などの境目が崩れることによって、多様性のある自由度の高い社会が作れたら良いと思っています。

◆若林ガバナー補佐より一言

今日はお呼びいただき、ありがとうございました。これまで参加したテレビ例会の中で、今日の例会は人数的に丁度良いと思いました。東京 RC は今 340 名いますので、このような例会は不可能で、完全に止まっています。紀尾井町 RC は 50 数名で、先日みんなテレビ例会をしました。とはいえ無理はありますね。丸の内さんの人数では全く問題ありませんので、良いと思います。最近では、オン

ラインをメインとする e-クラブもあると聞きました。ただ、やっぱり生で皆さんとお会いして、相手の目を見ながら例会をする形式の方が優先されてしかるべきと思います。

ガバナー補佐としてはあと 1 か月となりました。この 1 年間皆さんにお世話になり、ありがとうございました。次は紀尾井町 RC の西岡さんという、非常に温厚な方です。

地区でもフェイスシールドの活動をやりました。結果は 5 万枚以上を東京都医師会、沖縄県医師会にお届けしました。追加分を東京都にも届けました。麹町 RC は千代田区歯科医師会と千代田区調剤薬局会にフェイスシールドを送りました。非常に喜んで頂きました。いろいろなご意見もありますが、受け取った方からは大変喜んで頂きました。

来年また皆さんと共に一生懸命やっていきたいと思います。

◆ 閉会宣言 (尾崎会長)

今後の予定

6 月 3 日 第 53 回例会	卓話 チャイルドファースト ジャパン 小児科医 山田不二子様
6 月 17 日 第 54 回例会	最終例会 総括